

忙 申 閑

アフターコロナにおいては、身体的健康に加えて、精神的健康にも配慮した取り組みが求められています。

近年は、従業員が心身ともに健康な職場は長期的パフォーマンス向上に寄与するという考え方から、積極的に「健康経営」を実践する企業が増えています。健康経営の充実は社会において、大きなメリットがあります。また、人生100年時代において、健康を維持し、いきいきと働くことは健康寿命の延伸につながります。このようなことから、働き方改革の重要性を認識し、個々の業務負担を減らして「夢・志」を持って働くことが大切です。

医療現場においては、「命」に関わるという感覚を持続し、組織の末端まで啓発し、現場の安全を確保することが最優先で

す。また、「明るく・楽しく・前向き」に仕事に励むことが医療人の最高の喜びです。さらに、若い世代から新鮮な考察を引き出すことや、チームワークを強化して競争力を蓄積し、外部環境の変化に柔軟に対応することも重要です。コロナ社会では、一定のディスタンス、ノンスキンシップが常識となり、会議はオンラインで施行され、何となく違和感を覚えます。若い世代との雑談、情報交換が難しくなり、新しい発想や考察が創り出されていないように思います。マスク越しでは相手の本当の心が読みない。顔の表情をうまく捉えることができない。真の人間関係が少しづつ崩壊しています。コロナが終息し、マスクなしでの会議が早期に訪れる事を願います。医療はもともと労働集約産業であり、患者と

明るく・楽しく・前向きに

広報委員 大野 良興

医療人が対面接觸しなければ、治療、手術、看護、介護等が提供できません。患者、家族との人間関係が不可欠です。

いかに人間性を追求し新しい常態を熟考するか。「不要不急の医療」が新常態社会に定着するかは疑問です。コロナ対応の医療機関で手術、治療の延期もみられ、受診抑制が現実となりました。また、人間ドック、健康診断、企業健診等の受診抑制でがん検診が大きく減少しました。2年以上続くパンデミックで疾病構造は大きく変化し、運動・会話・交流不足で精神疾患の増加もみられます。

このような中で、基本に立ち返ることが必要ではないでしょうか。多くの企業では「働き方の多様化」が通常になり、医療の世界でも例外ではありません。働き方の選

択肢が多く、適切な労働時間を含めた良好な職場環境の整備が必須となります。産休制度の充実、常勤・非常勤の雇用スタイル、フレックス制度、時短勤務等の柔軟な働き方、魅力・興味を感じる選択肢を用意しなければなりません。働き方改革の法的ルールを守り、将来を見据えて人材を育成し、外部から優秀な職員を獲得することは、魅力ある職場づくりのための投資です。職員満足度を高めることなくして患者満足度の向上は望めません。働きやすく、働きがいのある職場は、間違いなく優秀な人材から選ばれやすく、「質の高い医療の提供」「患者さんのさらなる笑顔」にもつながります。「明るく・楽しく・前向き」に仕事に励み、コロナ終息と世界平和を願います。